

令和6年度 第1回 学校運営協議会の報告（6月17日開催）

出席者 木原俊行（会長）、富士原純一（副会長）、中川智皓（委員）、山本博資（委員）、山本香織（委員）
網代典子（委員） ※中川委員は GoogleMeet にて出席
欠席者 神田敏生（委員）

以下の意見をいただいた。

○令和5年度学校評価、令和6年度学校経営計画について

- ・中期的目標が設定されているが、計画目標の設定年数は決まっているのか疑問に思う。見直すタイミングとしての区切りが見えにくい。
- ・4本柱となっている国際教育について、戦略としての存在感が薄いように感じる。
- ・スクールポリシーに触れた目標・計画を立ててもよいのではないか。
- ・大学等外部からの協力により、課題探究において充実した学習ができています。

○入試について

- ・入試制度改革により、変化する可能性があり普通科も含めて入学生の確保が必要。受験者数など、学校としての目標をあげてもよいのかもしれない。
- ・音楽科に関しては、サクソ、ユーフォニアムの専攻を増やしたことによって今年度サクソが5名入学した。
- ・昨年度より外部主催の学校説明会に積極的に参加するようになっている。
- ・万博参加に向けての取組みなど、生徒が活躍していることをもっとアピールしてもよい。

○その他（学校生活全般など）

- ・生徒の挨拶が素晴らしい。
- ・自宅学習についての指導が必要である。

令和6年度 第2回 学校運営協議会の報告（11月19日開催）

出席者 富士原純一（副会長）、中川智皓（委員）、山本博資（委員）、神田敏生（委員）、網代典子（委員）

※中川委員は GoogleMeet にて出席

欠席者 木原俊行（会長）、山本香織（委員）

以下の意見をいただいた。

○学校教育自己診断の結果について

①（教職員）項目1：「日常的に話し合っている」について

- ・学年の壁があることやPC作業により会話が減っている。
- ・他人の仕事に興味関心を示さない。もっと風通しのよい環境づくりが必要である。
- ・教職員同士の声かけが大事。1人ではない安心感を持たせることが重要。

②授業の充実性で教員と生徒とのギャップについて

- ・教員が生徒とコミュニケーションをとりながら把握することが大切である。
- ・観点別評価が影響しているのではないかと考えられる。
- ・授業アンケートの結果から興味関心は3.5以上であることから維持してほしい。

○働き方について

- ・残業時間、ストレスチェックの結果から、改善が必要である。部活動指導員などできる限り支援を必要とする学校も増えている。
- ・生徒の遅刻数減少やあいさつが増えているなど達成しているものを共有し、お互い認め合えるような職場環境を作っていくことも大切である。

○国際交流について

- ・年間の実施回数や内容について、学校交流は年2～3回、留学生が6～8名、また海外修学旅行も実施していることを共有した。

令和6年度 第3回 学校運営協議会の報告（2月7日開催）

出席者 木原俊行（会長）、富士原純一（副会長）、中川智皓（委員）、山本博資（委員）、山本香織（委員）

※中川委員は GoogleMeet にて出席

欠席者 山本博資（委員）、神田敏生（委員）

以下の意見をいただいた。

○令和6年度学校評価、令和7年度学校経営計画について

- ・働き方改革について、会議の短時間化については何を指標とするか考えてほしい。
- ・部活動大阪モデルについての取組みを進めるべきと考えるが、生徒の部活動に対する満足度との評価の整合性も考えるべき。
- ・民間のコンサルタントの派遣で働き方改革を進めることも考えられる。
- ・英検2級取得などは増えているか。また今後の指標としてどう考えているか。
- ・井の中の蛙にならず、公立高校同士の横のつながりを持っていく工夫をしてほしい。
- ・国立、公立、私立、様々な学校との交流で刺激をもてないか。生徒間の交流もよいのではないか。

<議決事項> 令和6年度学校評価、令和7年度学校経営計画